

## 日本労働年鑑 1951年版(第23集)

The Labour Year Book of Japan 1951

## 第二部 労働運動

## 第三編 農民運動

## 第三章 農民団体の現状

## 第三節 全国農村青年連盟

◇結成 一九四六年六月一日

◇経過 政治的中立と政党支持自由の原則を建前とし全国の中堅農民層を組織対象として発足、主として旧産業組合、農業会幹部の系統を引き、従って現在も農業協同組合に勢力を有して組織を拡大して来た。一九四九年一月現在一一七万の盟友を有すと言う。

◇機関紙 盟友

◇役員

委員長 富塚敏信(千葉)、副委員長 石川清一(北海道)、小林慧文(三重)

中央常任委員

一柳芳男(山口) 河口陽一(北海道) 佐々木源左衛門(宮城) 金子與重郎(群馬) 新井富重(埼玉) 加藤吉太夫(福井) 鈴木猛男(愛知) 防原久雄(岡山) 鈴木壽二(岡山) 井口貞夫(徳島) 村上義夫(福島) 中野喜麿太(大分) 千石虎二(中央) 長田喜則(神奈川) 平尾卯二郎(中央)

幹事長 中村吉次郎

農青連の綱領

- 一、農村における一切の封建制を打破し個性の尊厳を基調とする農民の人間的解放を期す。
- 一、土地改革を完遂し科学的農業と文化の創造による新農村の建設を期す。
- 一、農民の自主的組織を確立し都市勤労者と相携え民主日本の実現を期す。

当面の要求と実践活動目標

- 一、人間平等思想に基く個人の自由と責任の確立、人権の尊重と義務観念の昂揚、二、封建的家長専制を斥け農村に於ける青年並に婦人の個性の尊重。三、民主主義的訓練を通じて軍国、封建主義、官尊民卑思想の徹底的打破。四、科学智識の体得による迷信的慣行の払底。五、立身出世主義教育並に都市中心的画一主義教育を排し農民人格の育成教育の確立。六、農村青年の政治的自覚の高揚と農村自治確立。七、寄生的土地所有の解体、国有地公有地御料地解放、土地配分の合理的計画樹立、耕作権の確立、小作料金納制の徹底による農業の近代化実現。八、人口、立地条件を基礎とする開墾、山林原野の合理的利用、農地の造成、交換分合、水利改善等の推進。九、有畜機械農業促進と農村電化の普及、農村工業振興と技術革命遂行による農業の協同化、社会化の実現。一〇、農業再生産を可能ならしむる農産物並に農村必需資材、価格体系の樹立、農業技術の科学化高度化並に適地適作による食糧の増産。一一、生活の能率化を期する家事、育児の協同化、衣食住生活の合理的改善実施による快適なる農民生活の建設。一二、医療厚生施設の拡充、栄養等を基礎としたる保健食糧の積極的摂取による穀物の偏食是正と農民体位の向上。一三、文化財文化設備を獲得し農民白身の手による芸術文化の創造育成。一四、独占資本及非農民的利益を排除し、協同組合組織による農民の経済的独立並進歩の確保。一五、官庁並に諸団体の

官僚的独善的分裂指導を排し、農村における自主的綜合体制の確立。一六、官僚的割当生産制並に供出制度を廃止し、青年の手による基礎的実態調査に基く食糧の自治的綜合出荷制の確立。一七、肥料、農機具、衣料その他農村必需資材の生産並に配給機構の徹底的改革の遂行と農民の積極的参加。一八、農村に於ける民主的組織の確立並に農民戦線の結集促進と民主的青年及婦人諸組織と共働、都市勤労者との組織提携。

日本労働年鑑 第23集／1951年版

発行 1951年1月1日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 時事通信社

2000年2月15日公開開始

---

■ ←前のページ 日本労働年鑑 1951年版(第23集)【目次】 次のページ→ ■  
日本労働年鑑【総合案内】

---

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)

---